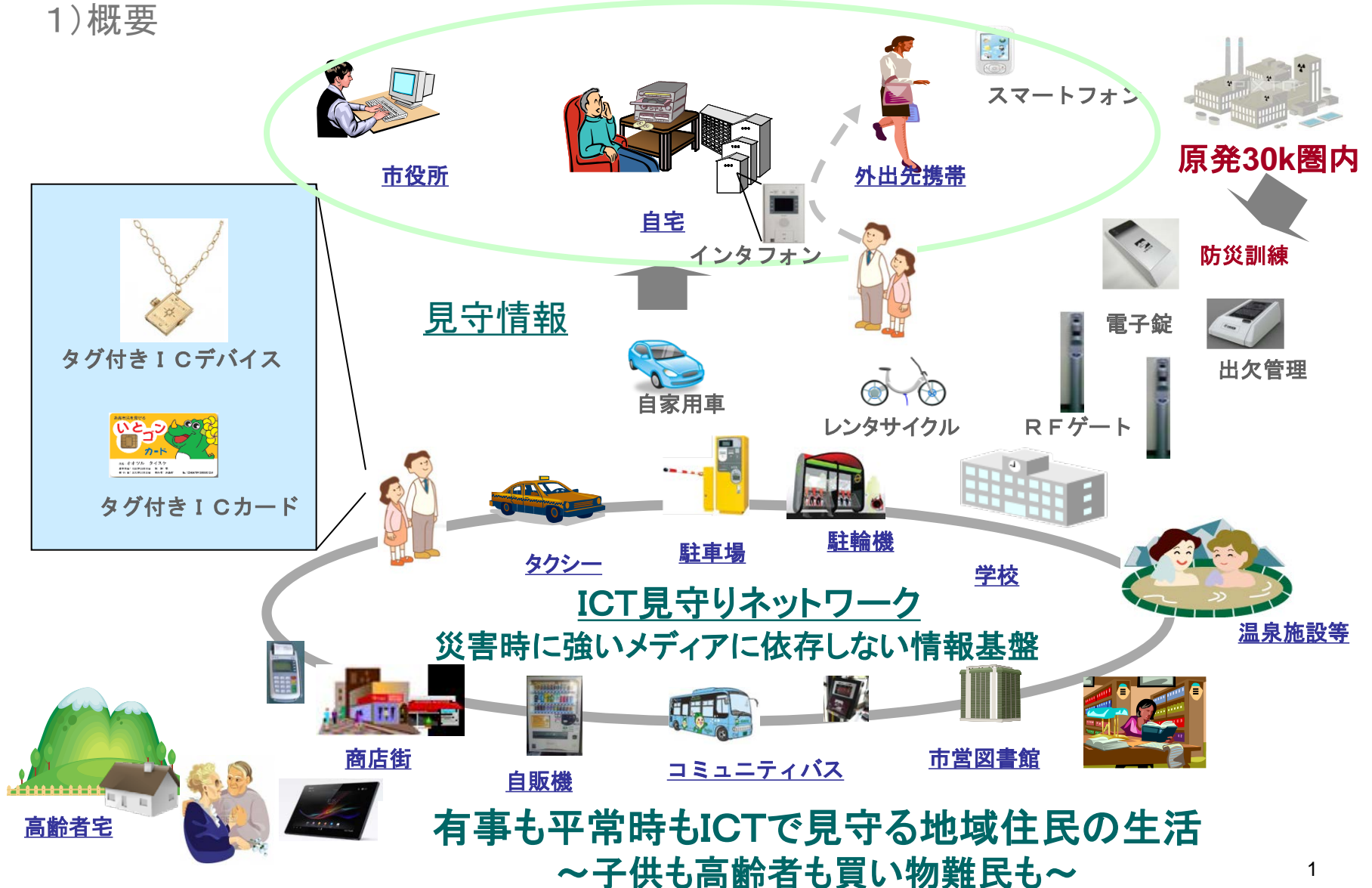
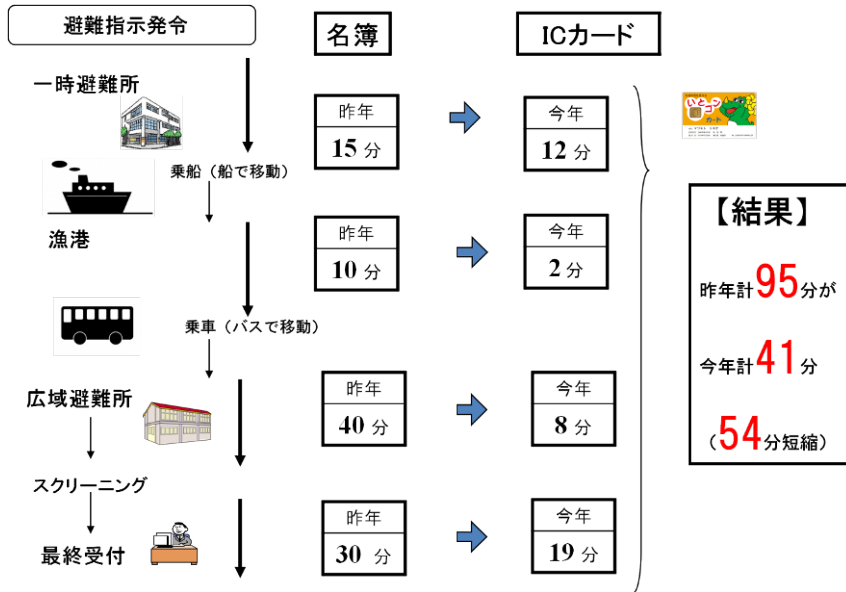


糸島市の実証

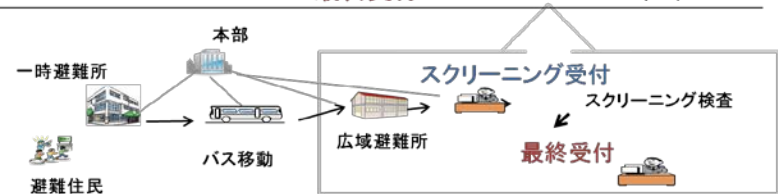
1) 概要



2) 代表的成果－避難(訓練) 支援－



行政区	処理方法	場所	平均時間(秒)/人 (サンプル数)
姫島	カード	スクリーニング受付	16.8 (24)
		最終受付	2.5 (32)
佐賀県	名簿	スクリーニング受付	227.2 (31)
		最終受付	11.2 (23)
長崎県	名簿	スクリーニング受付	497.1 (18)
		最終受付	6.9 (18)



災害発令	一時避難	現地負傷者	バス搭乗	バス下車	スクリーニング受付	避難所受付
13:00	13:50	14:00	14:30	18:30	19:00	19:10
	50	20	40	39	38	35

リアルタイム避難状況(対策本部)

集計避難情報

家族ごとの避難情報

3)現在の主要な状況

[利用者・カード発行]

◆利用者16,900名

◆発行受付済み23,000名(3,000枚は初期実証及び検証で使用したため予定数量超過)

※現場のニーズを織り込みシステムへのニーズフィードバックを継続実施

→小学校では4月以降新規入学生の申し込みが殺到(予算対応に苦慮)

→シニアクラブの新規受付増加

[新たな実証への要望] ※以下では、さらに新たなシステムニーズ実証要望が発生

◆小学校で新規実証の要望

→子供の引き渡し/学校内サービス教育の見守り

ある小学校の校長校長先生の話「ICカードの導入や現場のICT化はいろいろな理由から反対する人も多いが、そんなことを言っても、これからの子供たちは社会に出て否応なくICカードやICTの技術に触れざるを得ないので、なじませなければ社会に適合できない子供を作ってしまう。なじませること良いところ悪いところをわからせること、それも教育だと思っている。」

◆シニアクラブで見守りの充実

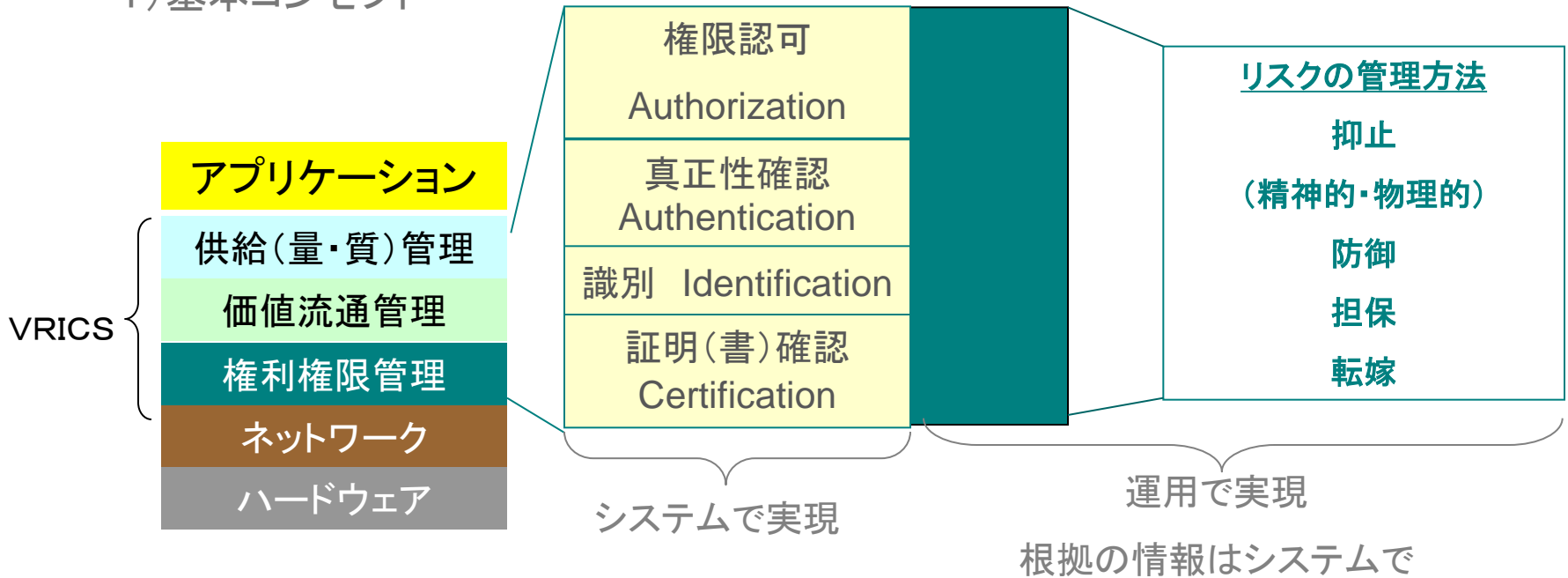
→独居老人の万が一対応/救急車両対応

糸島市でのVRICS利用



VRICSの概要

1) 基本コンセプト



VRICS (Value and Right Circulation Control System) ←旧MIID (Media Independent ID)

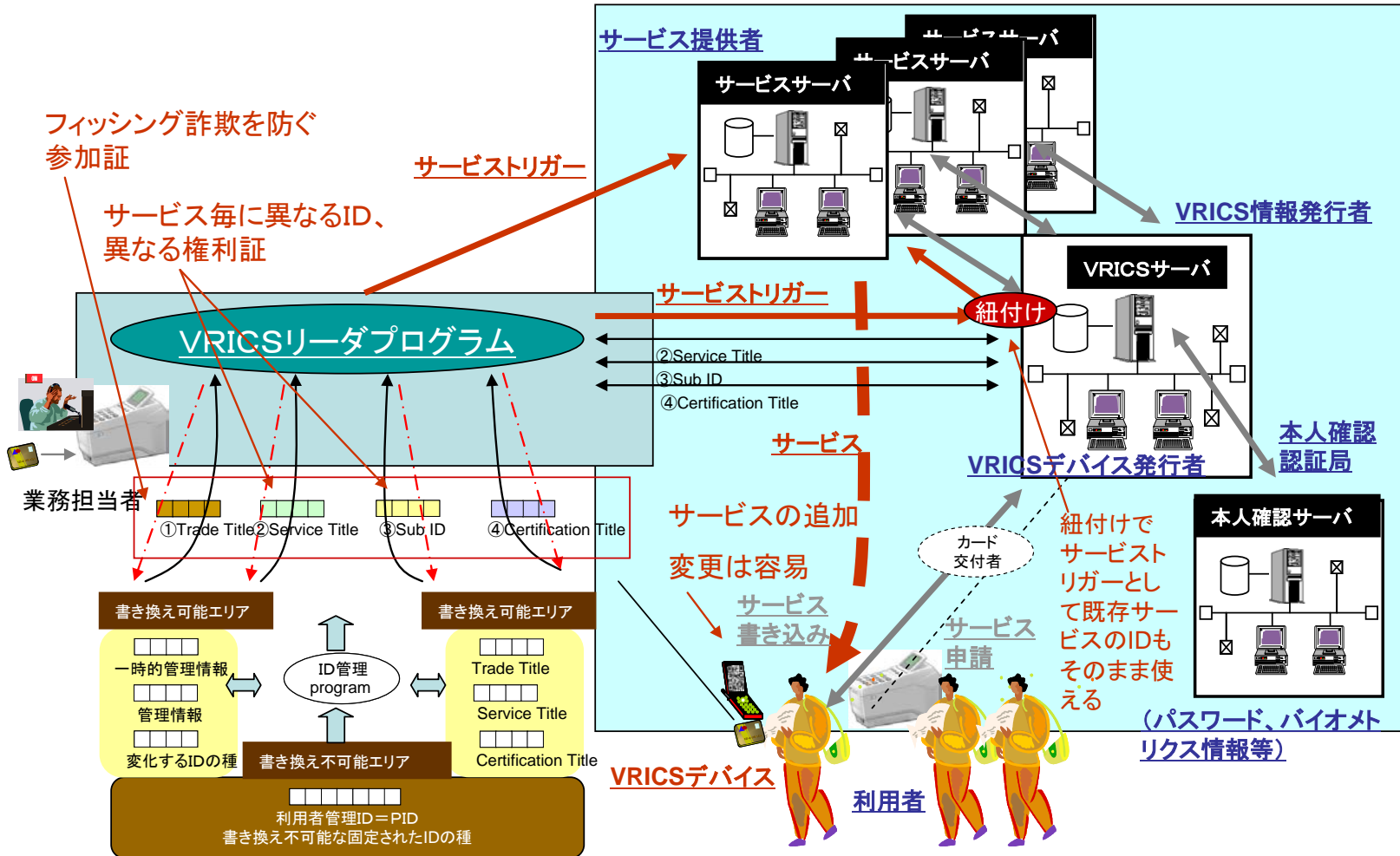
コア部分は権利権限の管理と価値流通管理部分。

コア部分には識別、証明確認、真正性確認、権限認可の機能とリスク管理機能を搭載。

リスク管理機能は抑止、防御、担保、転化の4つの処理方法より構成。

どのようなリスク管理処理を行うことが安心安全かは処理対象となるデータにより異なる。

2) システム構成と機能

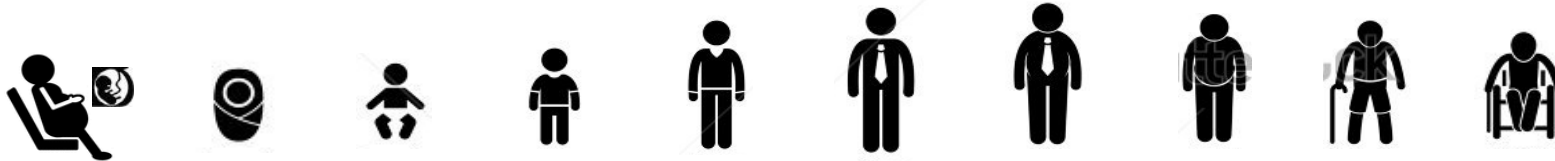


5) 技術の特色

- ①柔軟でセキュアな権利権限管理を行うことが可能。
- ②セクトラルモデル* のためひとつのサービスの情報が漏れても他のサービスに影響を及ぼさない
- ③個人情報保護しつつ効果的にサービス提供、マーケティング情報を得ることが可能
- ④他のID体系を使っている既存のサービスをそのまま取り込める。
- ⑤電子マネーサービス等ログを残すサービスを指定できる。
- ⑥サービスの権利証と電子マネーをすべて電子的有価証券として流通させ貸し借りさせることができる。
 - 複数の電子マネーを共存させ、システムで交換することができる。
 - 委任や扶養被扶養にも対応可能
- ⑦複数のサービスの権利を一つにまとめてオンライン、オフライン両の環境で管理することができる。
 - 組織管理に利用することができる。
- ⑧鍵情報の盗難、リーダ情報の盗難に迅速に対処できる。
- ⑨利用者がサービスの申請、変更、追加、廃止、確認を容易にできる。

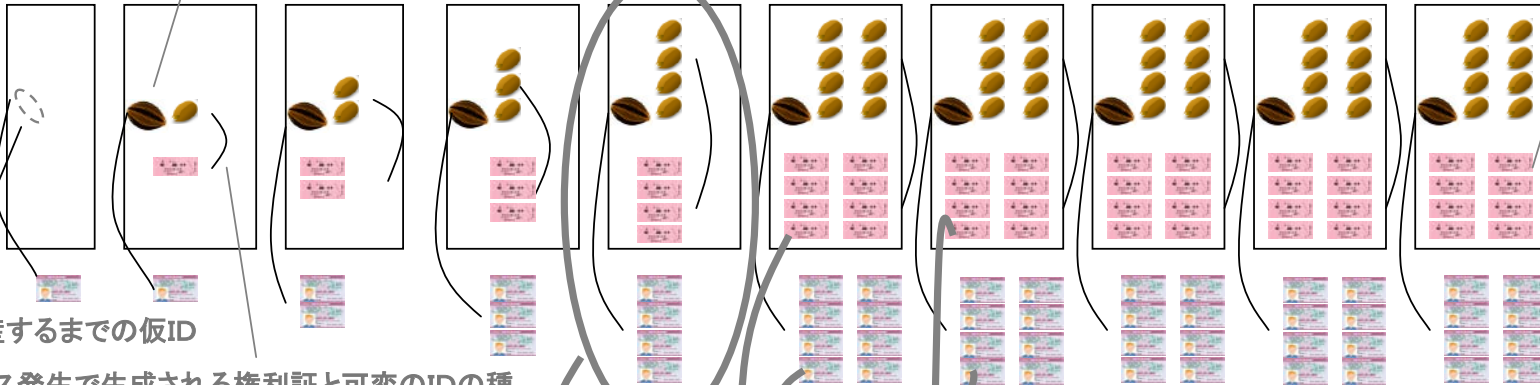
糸島市のVRICS

VRICSver4 (Media Independant function)



出生すると生成されるユニークな不変のIDの種 (PID)

バーチャル収納媒体



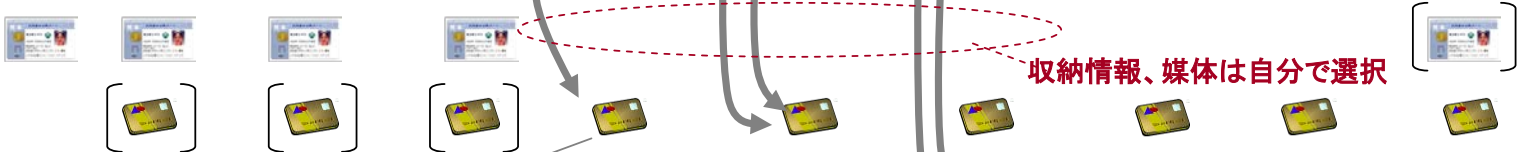
出産するまでの仮ID

サービス発生で生成される権利証と可変のIDの種

固定と可変のIDの種で生成されるサービス毎のSubID

権利証 SubID

親権者
後見人

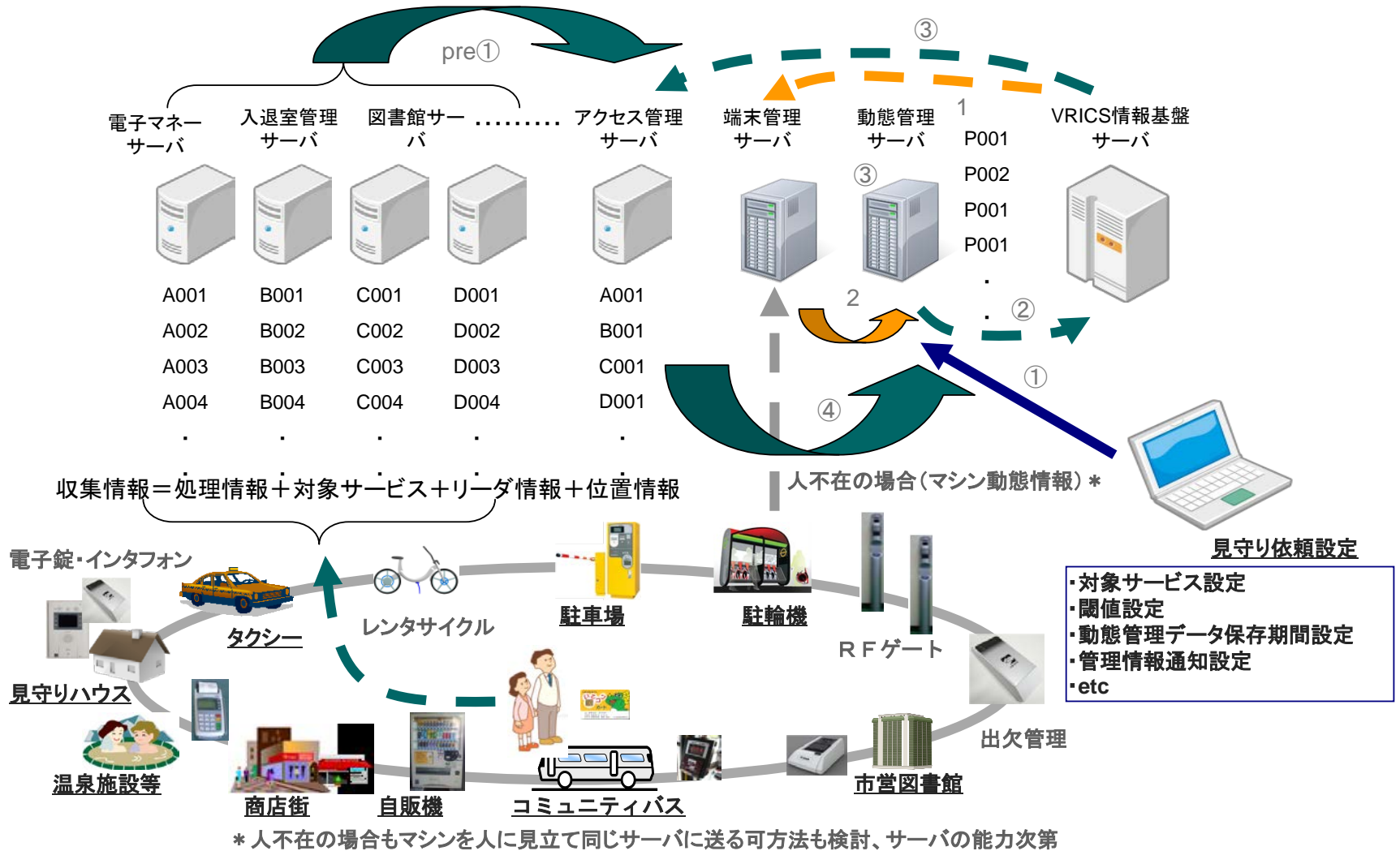


本人

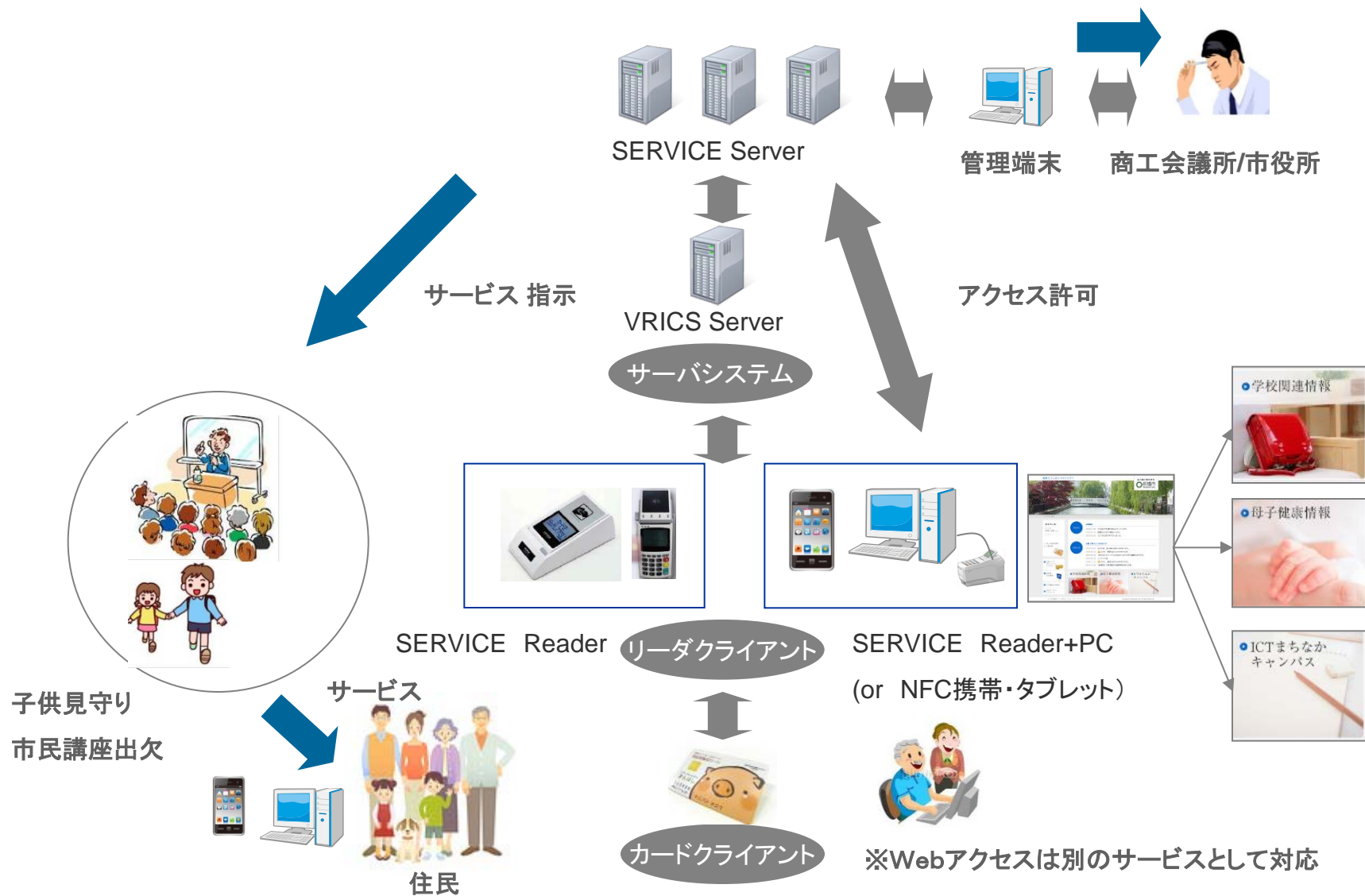
独立行動が出来るようになったら媒体発行
媒体は複数種類・人も記憶媒体として

サービスの権利証はサービス事業者のIDのようなもの

セクトラルモデルのVRICSで行う見守り



前橋市でのVRICS利用



1つのモデルを複数地域で活用するメリット

①地域間のデータ連携が容易

- ・どこにいても同じサービスを受けられるようにすることが容易になる
- ・自治体間でサービス連携することが容易になる
- ・引っ越しをしてもデータの移行が容易になる
- ・住民の権利義務の管理が簡単になる
- ・低コストで利便性の高い住民のICカード管理システムが可能となる。

例：本籍で住民カードを発行、現住所はカード内にメモリーで記録

引っ越ししてもカードが無駄にならない

②システム操作の共通化が可能(ユーザビリティの向上が可能)

- ・どこに行ってもどこに引っ越しても住民は同じ操作でシステムが使える

③システム構築コストを圧倒的に低減できる

- ・アプリについてはコストシェアが可能◎
- ・デバイスや機器も共通化で量によるコスト削減が可能

他の地域への導入にあたって直面した課題と解決策

[実証事業としての課題]

①実施主体として真に必要な住民ニーズの洗い出し

- ・実証実験で課題を出してほんとうに使える仕組みを作る⇔当初より実用サービスとして導入する

②システム開発側との十分な意思疎通

地域の大学の使命の一つは自治体の支援⇔企業はビジネスとしても成り立つ必要

- ・大学はクライアントを説得しても必要な事は実施⇔企業はクライアント側意見を必須条件として事業を実施。

☞事前の合意形成、目的意識の共通化

☞事業終了後に課題を解決した仕組み=あるべき姿を提示する

※一番のポイントは自治体⇔住民、自治体⇔開発事業者の合意形成

[導入そのものの課題]

①技術に対する理解を得る

- ・セクトラルモデルとは何か？/情報基盤とは何か？/開発システムに対して調整も何もせずに使えるのか？/ICカードアクセスはWebシステムに適しているのか？

②情報基盤を含むトータルシステムの確立

- ・VRICSコンセプトにおけるトータルシステム開発方法の資料等の不足
- ・開発技術者へのセクトラルモデル情報基盤技術継承の時間不足

③適切な技術の利用(⇔①)

- ・Webサービスにおけるカードアクセスの限界(リーダの整備、セキュリティ維持)
- ・複数のWebシステムアクセスにおけるセクトラルモデル有効なケースと有効でないケース
- ・シングルサインオンが効果的なケースとセクトラルモデルが効果的なケース
(セクトラルモデルはシングルサインオンを包含できる。)

☞システム企画時の情報基盤設計方法のマニュアル化

☞VRICS情報基盤インタフェースの標準化

☞VRICS技術適用マニュアルと導入事例の整備

- ・セクトラルモデルとシングルサインオンの適切な使い方(DBアクセス、Webアプリ他)※
- ・セクトラルモデルとシングルサインオンの融合方法

☞Web対応モデルの開発(VRICSWeb-ICカード利用/バーチャルカード利用)-a-

※例:

トップページに入るときにその人のアクセス権を確認し、アクセス出来るメニューを出し、そのままアクセス出来るページに移動する場合は、シングルサインオン。

メニューは出ていたとしても何にアクセスできるか分からず、アクセスしにいく都度、アクセスする人に権利があることを確認してページに移動する場合はセクトラルモデルで。

④携帯電話、PCへのVRICSクライアント配布の難しさ(⇔③-a)

・ユーザのダウンロード等を許すか許さないか？

利便性とセキュリティ担保→携帯電話、PCに常駐するクライアントの詐取、複製対策

☞ 指定場所でのクライアントインストール

☞ 利用者ライセンス管理

☞ 詐取複製防止管理システムの構築

今後の更なる普及展開に向けた検討状況

[国内]

①福岡県産業・科学技術財団と県による有事見守りシステムの県内展開

②小学校におけるアプリ拡大

→子供の引き渡しシステムのほか、糸島市小学校に教職員用に400台のタブレット配布、これを活用した教育見守りシステムを構築へ

③シニアクラブにおけるアプリ拡大

→消防署の緊急隊員にNFC携帯によるICカード読取システムを持たせ、シニアクラブが個人ごとの医療情報を持たせ緊急医療情報システムを実現へ

④糸島市による高評価事業の実用化予算確保、サービス継続。新たな実証事業の予算確保

[海外]

①オーストラリア RMIT University Melbourne

学内のICカード導入及び自治体の見守りシステム導入希望あり、4月に先方に出向き大学及び自治体の関係者と打合せ予定

②中国 大連大学 大連市見守りシステム